

2012年7月27日

JX日鉱日石エネルギー株式会社  
社長 一色 誠一 様  
JX日鉱日石エネルギー(株)水島製油所  
所長 安達 博治 様

日本共産党岡山県議会議員団  
団長 森脇 久紀  
日本共産党倉敷市議会議員団  
団長 田辺 昭夫

### タンク補修虚偽報告等に関する申し入れ

貴社は13日、「水島製油所にて、高圧ガス保安法に基づく保安検査において不備があることが判明した」ことを公表されました。報道によると、耐圧検査を免れるため、補修工事をしたにもかかわらず「問題なかった」と報告(13件)したり、検査で安全基準を下回る厚さが検出されながら操業(2件)していた、厚みを水増しするなどし補修の内容を過少報告(7件)していたというものです。万が一事故が発生した際の地域住民や労働者への影響、大企業が本来果たすべき社会的責任の重大さを考えれば、これらはいずれも許し難い行為です。

そもそも高圧ガス保安法は、「高圧ガスによる災害を防止するため、高圧ガスの製造、貯蔵、販売、移動その他の取扱及び消費並びに容器の製造及び取扱を規制するとともに、民間事業者及び高圧ガス保安協会による高圧ガスの保安に関する自主的な活動を促進し、もつて公共の安全を確保することを目的と」している法律です。その最低限の法律さえ順守できないということは、事業者としての資質、資格が問われる問題と言わなければなりません。

貴社は、「継続して調査を進め、グループ全製油所における同様事例の確認・調査を行うとともに、事態の重大さを真摯に受け止め、法令遵守の徹底と再発防止に全力を傾注する」と述べていますが、当然のことです。あわせて以下の点を強く求めます。

- (1) 徹底した自己批判をおこない、改善状況を適宜県民にも公表すること
- (2) 先の海底トンネル事故において国土交通省・有識者協議会がまとめた中間報告(23日)では、コスト低減や工期短縮の優先といった要因が事故を誘発した可能性を示唆しており、この件も踏まえ、社会的責任を重視し、安全優先の企業運営へ転換をはかること
- (3) 東日本大震災後のコンビナート防災対策にあたっては、率先して十分な対策を講じること

以上